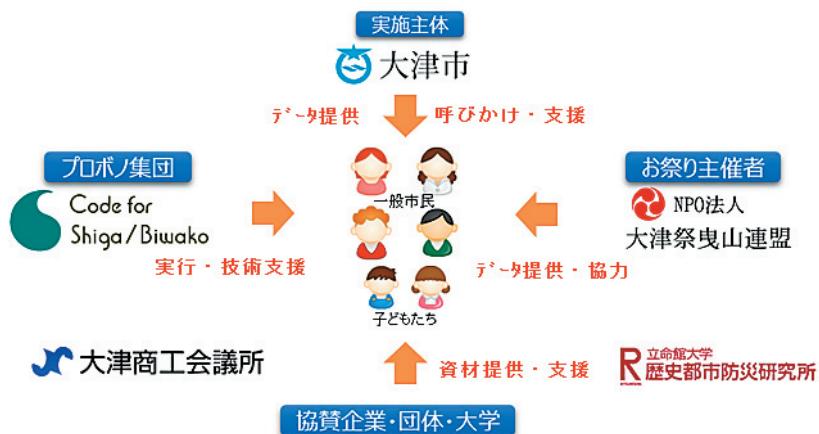


## (観光地として成功するモデルー3)

### 大津祭におけるICTの利活用 (大津市)

## 〔概要〕

大津市では、オープンガバメント推進の一環としてオープンデータ施策に取り組み、2015年からシビックテックを主催してまいりました。「アーバンデータチャレンジ2016」では、より多くの方々に興味を持っていただくためにアプリ作成だけでなく子供達によるプログラミング作成イベントを取り入れ、「お祭りHack in 大津」と題して、「～大津祭り曳山アプリ・こどもプログラミング～」というテーマ設定をしています。これにより、IoTを活用したスマートフォンアプリの制作に留まらず、子供達が参加する電子工作とプログラミング体験などを通じ、幅広い協働による住民間のコミュニケーション向上や家族の絆の深化などを目指しました。



## 〔コラム〕

## (1) 事業内容

## ■ 「アプリ」でのICT利活用

曳山にIoT機器（iBeaconとGPS発信器）を搭載し、スマートフォンアプリ（日本語と英語に対応）で曳山の詳しい説明（文字と音声ガイダンス）と現在位置を案内。「からくり人形」を演じる場所（電柱など）にもIoT機器（iBeacon）を取り付けアプリで来場者を誘導。アプリは検知した曳山の名前、位置情報及び時間をデータとして蓄積出来るようにし、後日BIツールで利用者動向調査にも活用しました。

## ■ 「こどもプログラミング」でのICT利活用

「ミニ曳山」は子どもたちがオリジナルデザインで設計・制作し、パソコン「IchigoJam」と駆動系の電子工作キットを活用しプログラミングにより自走できるようにしました。

## 特集3 各地域団体で取組まれている事例(新規掲載事例)の紹介

### 取り組み①

スマホアプリによるお祭りガイダンス



iBeacon



音声ガイド  
機能



GPS



二ヶ国語

エンジニア有志グループによるスマートフォンアプリ「大津祭曳山ストーリーテラー」の制作と一般公開。

### 取り組み②

電子工作とプログラミング体験



子どもたちが協賛企業・団体より提供された電子工作機器を利用して「ミニ曳山」を作成しプログラミングを学ぶ。

### (2) 事業展開による成果・効果

「お祭り」をステージとしたICTの取り組みは、非日常性がそこにあることから市民や観光客の興味や関心が高く、当日の大津駅でのディスプレイデモやアプリインストール相談などを通じて、大勢の方々に楽しんでいただきました。アイディアソン、ハッカソンには、大津商工会議所、立命館大学歴史都市防災研究所などの協力により、幅広い分野から多数参加され、数多くのアイディアが生まれました。「大津祭曳山ストーリーテラー」はこのイベントから生まれたアプリの一つで、お祭り当日に利用出来るよう、大津祭曳山連盟の協力を得ながらCode for Shiga/Biwakoが実施環境を整えました。また、ミニ曳山の制作には親子が参加し、親子で大津祭の伝統文化を体感しながら、電子工作、プログラミング、走行イベントを楽しく体験していただきました。



本市としては『市民協働による成果物がオープンサービスとして提供できた』ことが大きな成果であると考えています。具体的な効果指標は以下のとおりです。

- ・市民、プロボノ集団、お祭り主催者、協賛企業・団体・大学など地域に関連する方々：参加者数 100名以上
- ・スマホアプリ「大津祭曳山ストーリーテラー」公開：利用者数 350名
- ・子ども向け電子工作とプログラミング体験：参加者数 親子10組17名
- ・大津祭から得られたデータ分析（人の動きの見える化など）：データ取得数約12,000件

なお、取組み事業構築に要した経費は数十万円で、定量効果は測定できませんでしたが、定性効果については、市民をはじめ、大学、企業、商工会議所、近隣市、地域クリエイター及び祭り関係者等のコラボレーションによる盛り上がりが非常に大きく、市民協働の実現と地域活性化に大きく寄与したところです

### (3) 今後の事業展開

今後の事業展開ですが、アプリに関しては「利用機能の充実」を目指して、ゲーミフィケーションを取り入れたり、観光系アプリとの連携により日常でも展開可能なよう利便性向上を図ることや、子どもプログラミングに関しては「継続性」が重要であると考えています。



#### [問い合わせ先]

- ・大津市政策調整部情報システム課  
〒520-0037 滋賀県大津市御陵町3番4号
- ・電話番号：077-528-2713 FAX番号：077-522-9300
- ・e-mail：otsu1218@city.otsu.lg.jp